



◆ アレルギー支援ネットワーク 通信 ◆



NO. 37

2010. 1. 1

※等幅フォントでご覧いただくと最適に表示されます。

皆さん、明けましておめでとうございます。アレルギー支援ネットワークの理事およびアレルギー大学の食品学の講座を担当させて頂いております名古屋学芸大学管理栄養学部の和泉秀彦です。

私と食物アレルギーとの出会いは、名古屋大学農学部在籍時に4年生になって配属した研究室で、米アレルゲンの精製から始まり、そのアレルゲンの性質解明および種子中での発現調節、さらにはその成果を利用した調理加工による低アレルゲン米の開発へとつながり、今では食物アレルギー症状抑制のための食品の摂取方法の模索に至っています。大学や大学院さらに大学の教員となった今までの約20年間ずっと食品学の立場からアレルギーの研究を続けています。

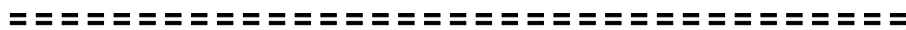
食物アレルギーは、普通に食べることでできる食品（卵・乳・小麦）が引き起こす病気です。つまり、病原菌やウイルスなどが原因で起こるような病気とは異なり、基本的には安全な食品によって引き起こされ、その食品に対してアレルギー反応を示す人に特異的に起こる病気です。本来ならば食べられるはずのものが食べられないという意味で、アレルギー患者にとってはかなり深刻な問題です。この食物アレルギーは年々増加の一途をたどり、これといった治療法がないのが現状です。私は、この食物アレルギーの抑制・治療を目標に、少しでも治療に役立つ研究成果が上げられるように努力したいと思っています。

これからも、アレルギー支援ネットワークおよびアレルギー大学での講座を通して食物アレルギーの最新の情報を皆様に提供していきたいと思っています。また、皆様から実際に食物アレルギーに直面している立場からの問題提起をして頂き、研究に役立てていきたいと思っています。食物アレルギー克服のため、一緒に頑張っていきましょう。食物アレルギー患者およびその家族、医師、栄養士、調理師、保育園や学校の先生、そして我々のような基礎研究に携わる者が互いに協力し合うことが大切だと思います。今後ともよろしくお願ひします

名古屋学芸大学管理栄養学部
和泉 秀彦

==== も く じ =====

1. 理事長 副理事長から 新年のご挨拶
2. アレルギー疾患をもつお子さんの新型インフルエンザ対策（再掲）
3. 「食物アレルギーひやりはっと事例集」の無料配布について
4. アレルギー大学を受講して 多治見アトピッズ会 原田まり
5. おいしいレシピ 簡単に作れる『八宝菜』 青木好子
6. その他お知らせ
 - 1) 「アレルギー児の親の交流会」 開催のお知らせ
 - 2) 講演会のご案内
 - 3) アレルギー支援ネットワークの事務職員の募集！
7. メールマガジンについてのお問合せなど



1. 理事長 副理事長 新年のご挨拶

☆☆☆新しい年を迎えて☆☆☆

理事長 須藤千春

(中部大学応用生物学部教授)

新年明けまして、おめでとうございます。

会員の皆様には本年も引き続き、本会の活動によりしくご支援くださいますよう、願い申し上げます。

私事になりますが、小生が枯草熱（牧草の花粉によるアレルギー性鼻炎）について聞いたのは今から約45年も昔の、花粉症のメカニズムが解明される以前のことで、日本のスギ花粉症も知られていませんでした。毒を含まない身近にある普通の植物の花粉が原因となって病気になるということに大変奇妙な感じがしました。当時は『西欧社会の没落、イギリス病』などということも言われており、両者に何か関連があるかと勝手に想像していました。

ところが近年、本邦でもアレルギー疾患のメカニズムの解明が進み、多くの詳細な研究が行われていますが、国民病と呼ぶのに相応しい、極めてありふれた疾患になっています。対策に何か抜け落ちているところがあるのではないかと思います。

その中でも、特に室内環境の整備や発症の予防対策については検討がまだ不十分なように思われます。そこで私たちは室内環境の評価法についてここ数年検討してきました。その結果、夏季には冷房による除湿が、冬季には暖房による湿度の低下がアトピー性皮膚炎の悪化要因になっている可能性が示されました。特に暖房して換気を行うと、湿度の低下が大きいので、注意すべきことと考えられました。

また発症予防のためには、患者がどのようなときに発症・悪化するかを生活環境の中で、明らかにすることが重要であります。特に気管支喘息は古くから季節病、気象病と呼ばれているように、気象条件が大きく影響しています。そこで毎日の気象条件から発症・悪化の危険度を予測し、その結果を花粉症のように、マスメディアなどを通じて発表できるようなシステムを構築したいと考えております。

副理事長 小川雄二

(名古屋短期大学教授)

新しい年が、皆様にとってよい年になりますようお祈り申し上げます。

さて、去年はアレルギー支援ネットワークにとって、大きな年でした。この1年で、事務所の移転、認定NPO法人の認定、専任職員の配置など、大きな前進をすることができたと思います。

アレルギーの患者支援という、社会的に必要であっても、ほとんど事業(収益)に結び付かない活動を、ここまで軌道に乗せることができたのは、事務局メンバーの頑張りと多くの善意の皆様の支援があったからこそだと思います。一方で、昨年夏には名古屋でアトピーの中学生が、自ら命を断つ事件が起こるなど、私達の活動がまだまだ、非力であることも否めません。

2010年は皆様の更なるお力を頂戴して、さらに旺盛な活動が展開できる年にしたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

副理事長 伊藤浩明

(あいち小児保健医療総合センターアレルギー科中央検査部長)

あけましておめでとうございます。

アレルギーの診療は、経口免疫療法の登場によって急速に変わろうとしています。私たちも、その

流れをリードすべく、診療や研究に励んでいます。
支援ネットは、こうした医療の進歩と歩みを合わせて、地域と医療の密接な関係を取り持つ力強いパートナーです。ことしもよろしく願いいたします。

2. アレルギー疾患をもつお子さんの新型インフルエンザ対策（再掲）

アレルギー疾患をもつお子さんの新型インフルエンザ対策

アレルギー専門外来を担当していて、最近多くの患者さんやご家族から新型インフルエンザについての質問をうけることがあります。

各種報道で私たち医療者よりも皆さんのほうが新型インフルエンザに関してはよくご存知かもしれませんね。

しかしアレルギー患者についての報道が必ずしもされているわけではないようです。

そこで今回は特に新型インフルエンザのワクチンについてアレルギー患者のみなさんに関する情報を一部記載させていただきます。

（ただし、ワクチンの優先接種時期や接種回数なども次々と国（厚生労働省）の方針が変わっているように、この記載内容が皆さんの目に触れるときには古い情報になっているかもしれません）

まず新型インフルエンザワクチンの接種対象者ですが、現在のところ「基礎疾患を持った患者さんが優先」となっています。

この「基礎疾患」というのはアレルギー疾患の中では気管支喘息だけが対象です。重症なアトピー性皮膚炎や多種食品にわたる食物アレルギーについても優先接種対象の「基礎疾患」ではありません。

季節性インフルエンザワクチンの接種に関しては「卵アレルギー」は要注意となっていますが、（国内産の新型インフルエンザワクチンはこれまでの季節性と同じような製造工程で作られているので、）新型インフルエンザワクチンに対しても同じような対応が必要です。

つまり卵アレルギーだから新型インフルエンザワクチンを接種してはいけないというのではなく、接種するときには注意をする必要があるということです。

具体的には、鶏卵によるアナフィラキシーの既往があったり、アレルギーの抗体検査（IgE）で非常に高い値の患者さんは皮膚テストをするなどの対応をとって（病院によって対応方法が異なります）接種する必要があります。

ただしこれまでに季節性インフルエンザワクチンを接種して特に異常がなかった方に関しては、そのような対応なしに接種できる可能性があります。

卵アレルギーの患者さんがインフルエンザワクチンに対してひどい症状が出やすいという報告はありませんし（逆に卵アレルギーがあってもなくても安全性は同じという報告はあります）、インフルエンザが重症化しにくいというわけでもありませんので、卵アレルギーを理由にインフルエンザワクチンをあきらめる必要はないと思います。

新型インフルエンザワクチンが、必ずしもアレルギー専門医がいる病院やクリニックに多く配分されているわけではありませんし、皆さんの主治医のいる病院に配分されているわけでもありません。

ですから、これまでに受診したことのない病院で接種しなくてはいけない（場合によってはどの病院でも接種できない）可能性も少なくないと思います。

アレルギーなどの病気をもった患者さんをはじめて診察する医師が、ワクチン接種できるかどうかを判断するのが困難な場合もあります。

また患者さん毎に対応も異なってきますので、ワクチン接種に関する疑問や質問は、かかりつけの医師にあらかじめご相談下さい。

日本小児アレルギー学会による
小児気管支喘息の新型インフルエンザに対する診療の手引き
暫定版 ver. 2 (2009/11/12 版) はこちらからご覧いただけます↓↓↓
<http://www.iscb.net/JSPACI/oshirase/091112.html>

3. 「ひやりはっと事例集」の無料配布のご案内 (1月10日配布終了です)

2007年名古屋市で開催された際に発表された「食物アレルギーひやりはっと事例集」が大好評のため、「ファディア株式会社の寄附助成事業」として、アレルギー支援ネットワークが3000部、医療機関や教育機関、保育園・子育てグループ、食品会社など食物アレルギーにかかわる皆様に無償配布を行っています。

(1月10日にて、無償配布を終了します)

お申込みは

メールフォーム <http://www.allen-net.com/e-hon/form-h/form.html>

よりお申込みいただくことができます。

詳しくは、ホームページより <http://www.allen-net.com/e-hon/hiyari.html>

なお、ホームページからも無料でダウンロードすることができます。

ぜひご覧下さい↓↓↓

<http://www.allen-net.com/taisaku/indexn.html>

4. アレルギー大学を受講して 多治見アトピッ子会 原田まり

アレルギー大学を受講して

多治見アトピッ子会 原田まり

今年度アレルギー大学を初級から上級まで受講しました。

私は第1期のアレルギー大学を受講していましたが、第4期の受講科目が増えており、色々な分野からの講座が聞けることが素晴らしいと思いました。

講座は医学・食品学・栄養学・調理実習に加え、口腔外科の先生のお話など多岐にわたっています。

医学に関しては、基礎から上級まで、順に聴くことで頭の中を整理しながら聞く事が出来ます。初級は食品別の症状の特徴や対応をわかり易く説明してくださいました。

中級では食物アレルギーのより複雑な事例に対応するために、具体的な事例や翌日から面談などで使えるポイントなども聞く事が出来ました。アレルギー症状への対応は、抗ヒスタミンの内服でよいか・ステロイドの内服が必要か・エピペン救急車が必要か?など、表で判断できるようになっており、分かりやすいお話でした。専門職種の方でしたら、即仕事で活用できる具体的な分かりやすいお話だと思えます。

急速経口免疫療法については、イタリアの情報を知る事が出来ました。少量でも強い症状を起こしてしまう子どもたちが、毎日少しずつ量を増やしていきながら摂取し、摂取可能な量を増やしていく事が出来る、積極的な治療です。今までの除去食とは考え方が正反対ですが、ごく少量できつい症状が出る場合、やはり社会生活をする上でリスクもあるため、少しでも危険から身を守るためにも、摂取可能な量を増やしたいと願います。但し、毎日増量しながら摂取していくと症状も誘発されます。専門の医師のもと、行う事が大前提です。今後の医療の発展を期待しつつ、これからも最新の情報を得ていきたいと思えます。

アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー疾患にも、診断から治療まで詳しく知る事が出来ました。

メンタルの面からも保育の専門の先生の講座を聞く事が出来たり、食品学では食品のたんぱく

質について、専門的な話が聞けます。私たちは医学の話は比較的聞く機会もありますが、食品学・保育の話などを聞く機会はなかなかありません。

アレルギーの子どもを理解するために、色んな分野の話聞く事が出来る素晴らしい講座、まさに『アレルギー大学』だと思います。

調理実習では給食でよく使えるメニューから、栄養満点のおやつレシピまで、幅広く実習する事が出来ます。なんといっても、専門職種の方と、普段のお話をしながら、わきあいあいとやれるのは、楽しかったです。普段作っているメニューでも一手間かけることで美味しくなったりと、発見は沢山あります。

いろいろな分野の第一線で活躍されている先生方の講義が聞けて、アレルギーについて色々な角度から理解できる『アレルギー大学』素晴らしいシステムだと思います。東海地方で開催していただけるのは本当に嬉しい事です。専門職種の方はもちろん、アレルギーの子どもを持つお母さんにも是非受けていただきたい！！と思います♪

5. おいしいレシピ 簡単に作れる『八宝菜』 青木好子

寒い日には「八宝菜」もいいものです、身体が暖かくなります☆

6. その他お知らせ

1) 「アレルギー児の親の交流会」 開催のお知らせ

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜん息など、アレルギーを持っているお子さんの事、アレルギーかな？と、お悩みのある方、私たちと一緒に話をしませんか？

アレルギー児の親交流会が4ヶ所になりました！

どこの交流会へも参加可能ですので、是非、ご参加下さい。

お待ちしております。

【対象】 0歳～中学生位までのアレルギー児の保護者

【参加費用】 無料

2) 講演会 開催のご案内

今年度、あいちモリコロ基金の助成金をいただいて、「地域の医療関係者と患者家族を結ぶアレルギー防災医療ネットワークの構築」を行っていますが、その一環として、「防災とアレルギー講演会（懇談会）」を県内各地で開催する予定です。

1月24日（日）愛知県常滑市 福社会館 北館2階 13:00～

2月14日（日）愛知県豊田市 豊田産業文化センター 視聴覚室 13:30～

3月7日（日）名古屋市 つるまいプラザ（愛知県勤労会館） 小ホール

それぞれ、アレルギー専門医による「アレルギー講演会」と、防災課や防災ボランティアも参加しての防災フォーラムを行います。

お近くにお住まいの方は是非、ご参加ください。どなたでもご参加できます。

尚、同企画の一環として「子どもが災害とアレルギーを理解できる副読本」も作成しています。5000部を印刷し、この講演会でも配布いたしますので、お楽しみに。

講演会の詳細が決まりましたら、順次、HPに掲載いたします。

3) アレルギー支援ネットワーク事務職員の募集

「アレルギー問題を解決する」アレルギー支援ネットワークの活動に熱意のある方で当面、数年間、パート勤務が出来る方を募集します(将来、フルタイム勤務で働きたいと意欲のある方、大歓迎です)。

仕事の内容

- 1.アレルギー大学の申込み、問合せなど受付事務および集計事務
- 2.助成金などアレルギー支援ネットワークの事業をすすめる事務作業
- 3.ワード、エクセルなどチラシの作成、集計などパソコンの得意な方歓迎。

勤務条件

- 1.平日及び土曜日、もしくは日曜のいずれかの週4日(以上)勤務できる方
- 2.勤務時間 10:00~17:00までで、一日6時間。
- 3.賃金は月8万円~(経験等により相談)。通勤手当は実費支給します。(試用期間3ヶ月程度。その間は時間給となります。)
- 4.有給休暇あり。労災保険、雇用保険などの対象となる方は保険適用となります。

応募のお問合せ先;栗木まで(070-5641-3107)

ボランティアでの皆様の作業なども募集しています。
事務所にお寄りください。(平日10:00~5:00まで)

事務所への交通機関は

地下鉄東山線 本陣駅下車 3番出口より南東へ徒歩1分

7. メールマガジンについてのお問合せなど

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazine@alle-net.com (メルマガ編集部)までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。)

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、メルマガ編集部 asn-mailmagazine@alle-net.com までお尋ねください。なおメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

★年末年始のお休みのお知らせ

事務所での下記の期間はお休みとさせていただきます

お休み期間 12月27日(日)~1月5日(火)

お休み期間の緊急連絡先

中西(070-5451-2347)、栗木(070-5641-3107)

発行/編集 認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 453-0021 愛知県名古屋市中村区松原町1-24 COMBi 本陣 S103

▽TEL : 052-485-5208

▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◆☆